

協同組合秋田市民市場(進藤政弘理事長)は、昭和26年に発足した朝倉市場出店者親睦団体「商栄会」のメンバーが中心となって、昭和37年に協同組合を設立して以来、57年目を迎えます。時代の変化に対応しながらも、着実に発展を続けることができたのも、ひとえにお世話になっている多くの皆様からのあたたかいご指導とご鞭撻の賜であると深く感謝いたしております。

現在は、鮮魚店、塩干物、乾物、青果物、日用品雑貨、衣料、飲食店などの各種専門店が全65店舗(組合員43、テナント22)で構成されています。秋田の台所として、これまで積み重ねてきた対面販売の良さを大切にしながら、安全・安心の品質の良い品揃えをし、市場全体の魅力を高めていくとともに、一店一店が地道に正直な商いを続け、お客様の信頼を得ていかなければならないと思っております。



[売場の様子]

少子高齢化、人口減少、世帯構造の変化や、個人所得の伸び悩み、また、大型店やスーパー等業態、業種間の競争激化のため、我々の業界を取り巻く状況は非常に厳しく、景況感の上昇は感じられない状態が続いております。

また、食料品をはじめとする暮らしに身近な様々な料金の値上げが相次いでいる中、10月には消費税率が10%に引き上げられ、軽減税率は導入されるものの生活必需品の消費税負担が家計に重くのしかかります。消費税引き上げ後には購買意欲の低下、買い控えなどが懸念されます。店側にとっても、レジシステムの変更などといった費用も発生し、消費税増税による負担は大きいものになります。

消費者に低価格志向が定着しているともいわれておりますが、一方ではより美味しい、より安全といった品質に対する付加価値を求める消費者も多く存在しております。市場の一番の魅力は人情です。同じ商品を購入するにしても、売る人やサービスによって大きな違いが生まれます。お客様の立場に立って、食に関する情報を提供し、商品説明を行うなど、お客様のニーズを拾い上げていくことが非常に重要であり、商品に対するお客様との信頼関係を構築することが必要となっております。経営環境が厳しい中においても、我々商売人としては「お客様ありき」というスタンスで、お客様から信頼を得る、お客様に「いいね」と共感していただき続けることが重要であると思っております。

普段のお買い物だけでなく、市場ならではの豊富な品揃えを生かし、旬の食材をその場で味わって楽しめるオリジナル井作りは、好評を得ており、買い物だけでなく、食事や遊びの場として気軽に足を運んでもらい皆が楽しめる空間となることで市場の魅力が一層向上すると考えております。地元密着型の市場として日々のお客様を大切にしつつ、このような買ったものをすぐ食べれる井作り体験を通じて観光客への対応も強化しているところです。

食品小売市場は、激動期の真っ只中にあり、取り巻く環境も大きく変化していますが、社会環境の変化に柔軟に対応し、強みや特徴を活かすだけでなく、地域を大事にして住民に身近な存在であり続けたいと考えております。今年4月からは街中ニーズの高まりの動きに合わせ、秋田市商店街共通駐車券事業に新たに加盟し、駅前および中心市街地エリア内の商店街に車で来街したお客様の回遊性を高め、利便性を向上させる取り組みもしております。中心市街地にも安心して車でお越し頂きたいと思っております。

最後にもう一つPRを。お中元の季節、お中元の品は、贈って喜ばれる秋田市民市場の贈答品を是非ご利用ください！



[進藤理事長]